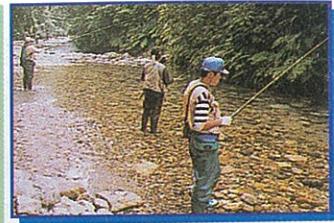


南会津のうりんニュース

第34号

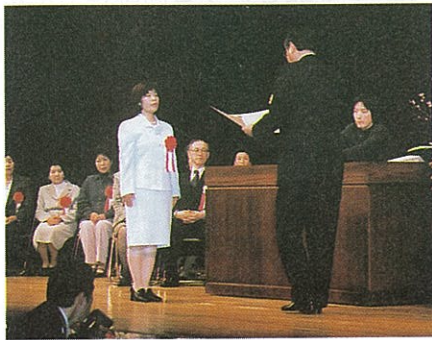
平成13年3月12日発行
福島県南会津農林事務所



今月のトピック

大内りんどう生活改善グループが農林水産大臣賞を受賞

大内りんどう生活改善グループは、婦人グループの生活・生産活動に関する表彰で全国48集団の応募の中より選ばれ、栄えある農林水産大臣賞を受賞しました。表彰式は、3月2日東京「日本青年館」で行われ、田中直紀農林水産副大臣より会長の佐藤なつのおさんへ表彰状が授与されました。



当グループによるりんどう規格外対策のドライフラワーの制作、漬物・餅加工や農家レストラン・民宿等の起業活動が、観光と農業の発展と地域活性化の力になったこと等を評価されて、今回の受賞となりました。



受賞おめでとうございます

(農業普及部)

「第9回美しい日本のむら景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受賞

日本のむらを代表すると認められる美しい景観を有する市町村を表彰する「美しい日本のむら景観コンテスト」において、只見町が最も権威のある農林水産大臣賞を1昨年の第7回大会に続いて受賞しました。

表彰式は、3月6日に東京都の朝日ホール（有楽町マリオン11階）で行われ、小沼収入役が町の代表として表彰を受けました。

作品の「晴天！！今日は、田植え日和なり」は、苗1本1本に豊作の願いを込めた布沢地区の棚田での昔ながらの田植え作業で、21世紀へ残したいのどかな田園風景を写したものです。

表彰式終了後、受賞市町村（作品）の紹介がスライドで行われ、審査結果の解説のなかでも「農村が持っている良さが見事に現れた作品である」と絶賛されました。（農業振興部）



「晴天！！今日は、田植え日和なり」
只見町布沢地区の風景

舘岩村「川衣集落」が県代表に！

農業生産や地域活性化運動で業績が顕著な集団を表彰する「豊かなむらづくり顕彰事業」において、舘岩村の川衣集落（芳賀勉代表）がむらづくりを主体とする集団の部門で優秀集団として晴れの顕彰に輝き、更に、県代表として豊かなむらづくり全国表彰事業推薦集団に決定しました。

川衣集落は、赤かぶやイワナ等の特産品生産、ミズバショウ群生地保護等の環境保全、都市との交流をはじめとしたグリーン・ツーリズムなどの取り組みを行っており、これらの活動が高く評価されました。

なお、表彰式は3月22日に福島市の杉妻会館で行われます。

(地域農林企画室)



冬の時期に作成した昔ながらのわら細工

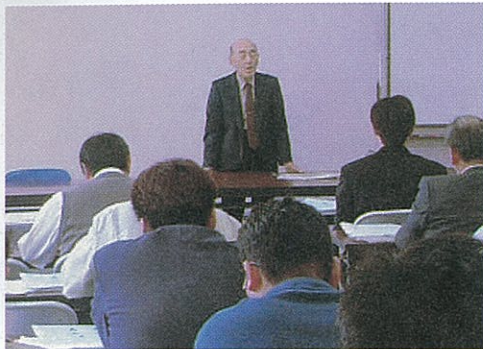
「南会津地方農業農村整備事業推進連絡会」を開催しました

当連絡会は、平成7年4月に設置され、南会津地方における農業農村整備事業の円滑かつ効果的な推進を図るため、管内の担当課長以下の職員、土地改良区職員及び農村整備部職員と土地連南会津支部に勤務する職員をもって構成し、毎年開催しているものです。

当連絡会は、年に何度か開催している担当者会議と違い、農業農村整備事業推進のための情報交換や諸方策等の検討を行うこととしており、幅広い話題や講演などを交えて開催しております。今年は、約40名の参加の下、2月6日に開催しました。

内容は、新年度より新たにスタートする「新たな農業・農村振興計画（仮称）」や「福島県第5次土地改良長期計画（仮称）」などの他、居川美貴農林漁業金融公庫仙台支店副調査役を外部講師としてお迎えし、「農業基盤整備資金等の借入にかかる留意事項について」の議題など、全部で9議題について研修を行いました。

さらに、「老耄雑感」と題して伊南村在住の馬場春一氏による講演を行いました。氏は明治44年にお生まれで、今年、90歳になられますが、伊南村の助役を2期勤められたほか、伊南村土地改良区の副理事長や旧伊南村農協の組合長などを歴任されております。現在は、悠々自適の生活を送っておられますが、「福島県俳句作家懇話会」や「会津俳句連盟」の顧問をされており、「馬場移山子」としても有名です。90歳というご高齢にもかかわらず、講演中は終始立って話をされ、そのかくしゃくたる姿には驚かされました。老耄雑感とは「おいぼれの戯れ事」であるということでしたが、90年間地域を愛し、守り抜いてこられた先達の示唆に富んだ内容のものでした。



多くの課題を熱心に受講しました

なお、現在の連絡会設置要領については、諸般の事情により、発展的に廃止することを認め、次年度からは、新たな構想の下で開催することといたしました。（農村整備部）

育てたい 山へのマナー 火の始末 ～南会津地区山火事防止対策協議会を開催～

2月14日、消防本部、会津森林管理署及び南会津支署、各町村、各町村消防団、各森林組合、NTT、東北電力(株)、電源開発(株)、南会津地方振興局、南会津農林事務所で構成されている南会津地区山火事防止対策協議会を開催しました。

協議会では、南会津郡は山菜採りや釣りなどを目的とした県内外からの入山者が多いことから、4月上旬～5月下旬の間の最も山火事の発生する時期に、山火事予防パレードの実施や林道入口等に注意を呼びかける横断幕等の設置及び入山者にチラシの配布等を行い、山火事防止思想の普及を図ることを決定しました。

南会津では、ここ数年、大きな山火事は発生していませんが、毎年、数件の小さな山火事が発生しており、注意が必要となっています。特に、4月上旬～5月下旬の間は、空気が乾燥しますので、「たばこの投げ捨て」は絶対しないようにお願いします。また、たき火の処理は完全に消火するまでその場を離れないようにお願いします。（森林林業部）



山火事防止に向けて協議しました



実践者・研究者を招いての国際フォーラム

「南会津国際フォーラム」が下郷町で開催されました！

「持続可能な地域と自転車・鉄道のある風景」をメインテーマに、サイクリストの現状や地域づくりに関する「南会津国際フォーラム」が3月10日～11日にかけて、下郷町のふれあいセンターにおいて開催されました。当フォーラムは（財）日本サイクリング協会、南会津グリーンストッククラブの主催、筑波大学南会津研究会の共催により実施されたもので、国内外の研究者・実践者などが参加しました。

フォーラムでは、米国マサチューセッツ州立大のマーク・リンドハルト教授による「アメリカに於けるグリーンウェイ・プロジェクト」と題された講演が、また、元文部大臣の小杉隆東京サイクリング協会会長からは「サイクリストだからいえる環境政策」というテーマで基調講演が行われました。その他に、「共生環境の創造—自転車と鉄道のある風景」、「サイクリストの現状と利用促進に向けて」をテーマとした2つのシンポジウムが行われ、米国や各地域の実例をふまえながら中身の濃い内容で検討が行われました。（地域農林企画室）

『緑と水と心のふるさと』・・・ただみ

只見町産業観光課

只見町は、日本の町村の中で岩手県の岩泉町に次ぐ2番目に広い面積約747k㎡を有しており、東京23区の約1.2倍に匹敵しています。その広大な面積の約94%は山林で、四季の変化がはっきりしています。春の雪融けを待ちきれず、残雪の中からブナの新芽がいつせいに吹き出し、夏にはその緑が太陽の恵みによりさらに色濃くなり、秋には地域特有の一日の寒暖の差により、全山まさに燃えんばかりの紅葉と変化します。わらび・ぜんまい・松茸・まいたけ等々の山菜のみならず訪れる人の心を魅了する自然の宝庫です。

また、只見町は降雪量が平均で18m、積雪量が2.5mにもおよぶ国内有数の豪雪地帯でもあります。

冬の山村は、どうしても暗いイメージを与えがちですが、それを打破し、この雪をどうにかして利雪に変えることができないかと始まったのが、今回で第29回になる『只見ふるさとの雪まつり』です。

この雪まつりも回を重ねるごとに、町民の交流の場から、町外、県外へと地域間交流が広がり今では、県内のみならず東北一の冬のイベントとなってきました。今年のメインとなる大雪像は、「納沙布岬と北方領土」と題し、幅が35m・奥行き20m・高さ15mもあり、11tダンプで約

1,500台の雪を運搬し、約2週間かけて作り上げたものです。その大雪像を中心に2月10日～12日の3日間、冬の祭典は繰りひろげられました。今までの光中心から、幻想的な火“炎”を会場内で演出したのも今年の特徴でした。イベントも昼夜を問わず多彩となり、特に夜の大花火大会は尺玉、スターメインから始まり、大雪像への仕掛け花火へと移るあの感動は、訪れた人々の心の中にいつまでも焼きついているものと思います。

来年は、いよいよ節目の30回を迎えます。克雪、親雪、利雪等に関しては、まだまだ開発の余地を残していますが、『只見ふるさとの雪まつり』は皆様に感動を与えます。是非、今から準備をされ、緑と水と心のふるさと只見町へお越し下さい。



新人の 想い

この一年を振り返って

農業振興部 壁谷 貴

(平成12年度新規採用 福島市出身)



暦の上では春を迎え、各地で、厳しかった冬もようやく終わりを告げようかという頃ですが、ここ南会津は、もうしばらく冬が続きそうです。

昨年の四月、はじめてこの地に来たときには、まだ、路地や日陰に大量の雪が残っていました。そして今年、全国的にも大雪だと言うことですが、うずたかく積み上げられた雪を見ると、その頃の気持ちを思い出します。また、春には、木々の一本一本が違う緑をした、神秘的で力強い新緑。秋には、一斉に山を覆い尽くす紅葉。と、他では味わうことのできない四季折々の風景を目の当たりにすることができました。

こうした大自然に囲まれながら、仕事をするようになって早一年が経とうとしています。振り返ってみると、多くの人達にお世話になった一年でした。私のはじめて任された仕事は、防霜対策の仕事でしたが、発議書の意味すら知らない私に、周りの方々は、一から教えていねいに、時には仕事の手を休めてまでも指導をくださいました。また、九月に発生した季節はずれのひょう害の時には、前例もなく、その対応にとっても苦労しましたが、この時も私の仕事のために、遅くまで一緒に残業をしてくれたり大変お世話になりました。

このような具合で、徐々にではありますが、仕事のこともしっかりはじめて、最近ようやくメンバーの一員になれたような感じがしています。

これから先、数十年といろいろな仕事をしていくことになると思いますが、南会津で過ごしたこの一年は、最も忘れられない一年になることと思います。

自慢できるのがこんなにあるんだもの、
もっと自信を持とうよ！

南会津は過疎化に歯止めがかからず、とうとう人口が3万5千人を割ってしまったのは皆さんご承知のとおり。昭和60年には約4万人いたから、16年間に5千人減ったこととなる。65歳以上の老年人口も県平均を10ポイント上回る29%を占めるなど由々しき状態、と考えるのはしかしちと早計過ぎるか。人口が増えれば過疎地域が抱える全ての問題が解決する訳でもあるまいし、ここは一つ発想を変えてみようではないか。

高齢者が増えるということは経験豊富な人生の達人、言い換えれば知恵袋が周囲に大勢いるということであって、決して悲観する何ものでもないだろう。雪深い南会津で永年難儀な生活を強いられ、自然に逆らわず、自然と共に歩んできた人生にはやさしさと自然に立ち向かうたくましが備わっており、身につけた生活術や手仕事には相当に磨きのかかったものがみられる。雪国ならではの保存食、山の幸を生かした郷土食、山の暮らしを支えた木師仕事、わら細工、民俗芸能等それらの「わざ」の大半は高齢者の手の中にあるといっても過言ではない。生活の知恵を授けてもらえる高齢者が近くにいて、それが若者の行動力と結びつけばどんな難局にも立ち向かえる、先ずそういう意味で南会津はよその地域に自慢できる訳だから、もっと自信を持っていい。

さらに、今回「美しい日本のむら景観コンテスト」で只見町の田植え風景を撮った新国勇さんの作品は一昨年に続く農林水産大臣賞受賞で、21世紀に残したいのどかな田園風景として見る者をほっとさせる農村景観が南会津には未だたくさん残されている。また館岩村の川衣集落は「豊かなむらづくり顕彰事業」でむらづくり活動の成果が、大内りんどう生活改善グループは婦人グループの生活・生産活動に関する成果が認められ農林水産大臣賞を受賞する等、立て続けの受賞は南会津の持つ懐の深さと人材の多さを示すもので、これも自慢できる項目の一つだろう。

農産物に至っては南郷トマトを筆頭にアスパラガス、りんどう、宿根かすみそうとトップブランドとして認められており、これもおいに自慢していい。

南会津にはこんなに自慢できるのがあるんだもの、みんなもっと自信を持とうよ！

地域農林企画室長 田村 万

JAPAN EXPO IN FUKUSHIMA 2001 平成13年7月7日
うつくしま 未来博 ~9月30日

「農林水産館」のロゴマーク決定！

目で見て、耳で聞き、手で触り、頭で考えることのできるパビリオン「農林水産館」のロゴマークが決定しました。ロゴマークは「森」・「川」・「海」をイメージして作られました。



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①遊休農地活用推進講演会	3月23日(金)	ユラックス熱海(郡山市)
②WTO農業交渉日本提案の福島県内説明会	3月26日(月)	JA福島ビル(福島市)
③農産加工施設利用(みそ)研修	4月18日(水)	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 TEL 0241-62-5866
南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

問い合わせ

あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail m-nourin@akina.ne.jp
ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
溪流釣り(館岩村)
4月1日よりイワナ・ヤマメ釣りが解禁



この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆)インキを使用しています。